Hijicho
大阪市立大学新聞

2015.7.1
第36号

伝統の戦い
第40回府大戦

写真＝学生支援課提供　　Hijicho　大阪市立大学新聞

Pick Up　2面◇公立大学の威信にかけて　第40回府大戦

ニュース

2面◇公立大学の威信にかけて
～第40回府大戦～
4面◇未来の市大生来訪！

LINE
Hijicho公式LINEアカウントで最新ニュースを配信中！
@hijicho で検索！

コラム・連載

5面◇教授が語る夢
都市研究プラザ・水内俊雄教授
6面◇マイナンバーって何やねん？
～「知らない」で済まない新制度を解説～
10面◇市大川柳

公立大学の威信にかけて ～第40回府大戦～

今年で40回目を迎える市大の初夏の風物詩、大阪市立大学・大阪府立大学総合競技大会（通称：府大戦）が6月13日（土）・14日（日）に大阪市立大学にて行われた。今年も好天に恵まれ、美しい青空の下で両大学の熱戦が繰り広げられた。結果は府大13勝、市大11勝で今年も府大の勝利となった。

写真＝開会式の様子（学生支援課提供）

大会中、両大学の応援団、市大の選手にお話を伺った。

応援団の声

・大阪市立大学応援団 森翔一さん（理・1）髙倉拓海さん（理・1）尼本聡美さん（医看・1）

森さん:初めての府大戦はしんどかったです。しかし大学では熱いことをしたいと思って応援団に入ったので、応援することにやりがいを感じました。これからは、先輩方から求められる以上のことが出来るように頑張りたいと思います。

髙倉さん:大学では厳しい団体に入りたいと思っていました。他の部活も見ましたが、応援団の新歓が楽しかったので入部を決めました。今日の応援では、仲間が団旗を振る姿が励みになりました。僕は吹奏楽をやっているので、応援歌を全て吹けるように努力したいと思います。

尼本さん:今後の目標は、もっと声を出して笑顔でいることです。そして、きびきび動けるようになりたいです。今日の反省を次回に活かしていけるようにしたいです。

・大阪府立大学応援団　橋本侑樹さん

昨年は府大、今年は市大での開催ですが、やることは変わりません。先ほど応援した準硬式野球部の試合では府大が勝利を収めることが出来ました。昨年に続き、府大が優勝出来るように頑張って応援したいと思います。

試合前の選手の声

・男子バスケットボール部　大沢広志さん（4回生）

特別に府大戦を意識していたわけではないですが、4月、5月はチーム一丸となって練習しました。勝利に向かって全員で頑張るところがこのチームの魅力です。魅力的なマネジャーが多いこともこの部の一つの魅力です(笑)。 勝利できるように頑張りたいと思います。

写真＝男子バスケットボール部の試合の様子（学生支援課提供）

・バドミントン部　厚見優子さん（文・3回生）

このチームの魅力は、何といっても勝利に対する意識が高いことです。府大戦は1回生がメインで出場する大会です。長期休暇終わりにリーグ戦があるので、実戦を経験できる良い機会だと思います。1回生の健闘を祈っています。

写真＝男子バレーボール部の試合の様子
（応援団提供）

試合後の選手の声

・準硬式野球部　1ー7で黒星
大森千聡さん（工・3回生）
府大はリーグ戦でいつも戦っている相手です。今回は負けてしまいましたが、チームプレイを意識しながら練習に取り組んで、次は勝ちたいと思います。

・ソフトボール部 第1試合　2ー9で黒星　第2試合　3ー18で黒星
大木研斗さん（経・3回生）
府大は市大に比べて投手陣、打線が強力でした。チームの実力差もありますが、チームの意識の差が結果に表れたと思います。これからは基礎を大切に練習しつつ、チームとして勝つ意識を植え付けられるようにしたいです。

From editor

今回の取材では、両校の選手の一生懸命な姿がとても印象的だった。体育会系の部活に所属していないと府大戦を知らない人も多いと思うが、そのような人でも大いに楽しめる大会である。来年は府大で開催される予定なので、ぜひ多くの市大生に足を運んでもらい、大会を盛り上げてもらいたい。

参加された選手・大会関係者の皆さまお疲れ様でした。

文責
山原怜太朗（Hijicho）

大会結果

＜期間外開催＞

剣道（男子）【4月11日開催】	市大の勝利
剣道（女子）【4月11日開催】	府大の勝利
アメリカンフットボール【4月26日開催】	府大の勝利
ラグビー【5月3日開催】	府大の勝利
弓道（男子）【5月5日開催】	府大の勝利
弓道（女子）【5月5日開催】	府大の勝利
水泳【5月23日開催】	府大の勝利
サッカー【5月31日開催】	市大の勝利

＜6月13日開催＞

バスケットボール（男子）	市大の勝利
バスケットボール（女子）	市大の勝利
ハンドボール	府大の勝利
日本拳法	市大の勝利
バドミントン（男子）	市大の勝利
バドミントン（女子）	府大の勝利
準硬式野球	府大の勝利
ソフトボール	府大の勝利
ソフトテニス	市大の勝利
アーチェリー	府大の勝利

＜6月14日開催＞

バレーボール（男子）	府大の勝利
バレーボール（女子）	府大の勝利
硬式テニス（男子）	市大の勝利
硬式テニス（女子）	市大の勝利
卓球（男子）	市大の勝利
卓球（女子）	市大の勝利

市大11勝　府大13勝
今年度は府大の総合優勝

通算優勝回数
40戦中 市大15勝 府大23勝
（1分け1中止）

未来の市大生 来訪！

6月12日(金)、市大の商学部に興味を持つ高校生を対象にした講義見学が行われた。この見学会は毎年開催されている。今年度は、本学商学部提供の「会計基礎論演習」と「公益事業論」の講義体験、そしてOB・OGの現役市大生との交流会が行われた。そこで今回は、現役市大生との交流会を取材した。

交流会は学術情報総合センター1階の文化交流室で行われた。この日参加したのは、大阪ビジネスフロンティア、扇町総合、住吉商業、中央、鶴見商業の5校から集まった高校生有志で、1年生から3年生までの計36人だ。真剣な様子の高校生たちは、各々が感じている大学への疑問や感想を現役市大生に投げかけていた。一方、高校生に多くを伝えられるよう、投げかけられた疑問に熱心に答えていた市大生が印象的だった。今回は、大阪ビジネスフロンティア高等学校に通う２年生の北本久美子さんにお話を伺った。

―なぜ今回の市大見学会に参加しよう思ったのですか

学校で見学会の告知を受けてぜひ参加したいと思ったんです。去年もこの見学会に参加しているので今回で二度目ですね。私は推薦入試の制度を使ってこの大阪市立大学に入りたいと考えてます。だから見学会はこの大学をより知ることのできるチャンスだと思いました。

―現役市大生との交流はどうでしたか

単純にとても楽しかったです。それに、高校の進路指導の先生や説明会などで市大の先生に説明していただくだけでは、どうしても教師目線、大人目線での意見になってしまいます。だから、前から現役市大生の方とお話をして「リアルな市大」について詳しく知りたいと思っていました。実は、昨年はあまり市大に興味がなく、交流会は一切質問せずに終わってしまいました。しかしその後、市大を志望校として考えるようになってから、何も質問しなかったことをすごく後悔していました。だから、今回の交流会では絶対にいろんなことを質問して生の声を聞くんだという思いで参加しました。

受験や大学の授業のことなど様々な質問をしましたが、現役生の方に詳しく教えて頂けたのでとても感謝しています。

―大学の雰囲気をどう感じましたか

静かで落ち着いていて、自然が多く、勉強に集中できそうだと感じました。学生の方々も真面目そうな人が多い印象を受けました。また、きれいな校舎の中にも歴史を感じることができ、何年も使われてきたことを想像させる独特な匂いが良かったです。

―講義を受けた感想を教えてください

大学の授業は90分だと聞いていたのでとても長いのだろうなと思っていたのですが、あっという間でした。その中でも、公益事業論の講義が特に面白かったですね。自分にとって身近な事業について、具体的なエピソードを踏まえながらの講義だったので、とても分かりやすかったです。

―今回の見学会全体を通して何か感じたことがあれば教えてください

今回この見学会に参加して、よりいっそう市大への想いが強くなりました。自分が市大生になって颯爽とキャンパス内を歩いたり、講義を受けたりする姿を想像をしてしまったくらいです。受験までの道のりはまだまだ長いですが、今から努力して絶対に市大生になりたいと改めて思いました。そして入学後は商業高校での経験を活かしながら、プレゼンやボランティア活動などの取り組みに積極的にチャレンジして、大学生活を充実させたいと思っています。

また、8月のオープンキャンパスでは今回より更に多くの学生さん達にお話を聞けると思うので、今からとても楽しみです。

From　editor

今回、筆者は現役生として交流会で数人の高校生と話したが、彼らの言葉には度々、市大への「憧れ」が感じられた。私たち市大生にとっても、市大の良さを再確認することができた時間だったといえる。市大生はぜひとも入学当初や受験生時代に自身が想い描いていたキャンパスライフを思い出し、気持ちを新たに充実した日々をすごしてほしい。

文責

中村真由（Hijicho）

教授が語る夢
都市研究プラザ・水内俊雄教授

市大のさまざまな教授にインタビューを行い、夢や思想を聞くことで教授自身のことを追及していくこのコーナー。第11回目となる今回は、大阪市立大学都市研究プラザ兼任文学研究科の水内俊雄教授にお話を伺いました。水内教授は都市地理学を研究する一方で、国内外のホームレス支援施策にも積極的に取り組んでいます。
水内教授のプロフィールはこちら
http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/geo/intro_mizuuchi.htm
(研究室HPより)

写真＝水内俊雄教授

調査を通じて見えたホームレスの方々の現状

ー先生の研究内容についてお聞かせください

フィールドワークをしたり、昔の文献を調べることによって、居住や都市計画の観点から都市の変遷や都市政策の変化を研究することです。学生時代は理学部だったのですが、大阪に点在する植木鉢の分布を調べることによって、地域の特徴を調査しました。そういった経験から、より都市地理学について学びたいと思い、大学院に進学しました。大学の助手になってからは、院生とともにさまざまなフィールドワークを行ったり、地域の高齢者にインタビューを行ったりすることによって、地域の声や記憶の語り手として活動したりもしました。そのフィールドワークの際には、エスニックマイノリティ（社会の中で従属的な立場におかれることの多い民族）やホームレスのコミュニティーにもインタビューを行い、彼らの生活環境の現実に強烈な衝撃を感じました。そうして後に、大阪市立大学に教員として採用されて、都市地理学に加えて、都市研究プラザでホームレス支援施策の研究をしています。

ホームレス支援施策として、NPO（民間非営利団体　利益の配当を目的としない、社会的な活動をする組織のこと。）　であるホームレス支援全国ネットワークの理事として実際にホームレスの方々にヒアリング調査を行いそのデータをまとめて役所の方々と会議を開くことです。そこではホームレス支援施策の調整を議論しています。なぜなら、行政だけでは大阪在住のホームレスの方々の現状を明確に把握することは困難であるからです。また、そうしたNPOの活動が適切に行われているかも調査しています。

移民都市大阪と移民国トルコ

ー今までの調査の中で印象に残っている国や街を教えてください

1つ目は大阪ですね。大阪は、シカゴがそうであったように全国、特に西日本から多数の人々が仕事を求めて移民してきた歴史があり、さまざまな背景のある人々がごっちゃに集まる開放感やそのダイナミズムに強く惹かれました。その中には、四国や沖縄、鹿児島、朝鮮半島等といった各々のコミュニティーがあることも移民都市である大阪らしくてとても興味があります。東京もまた移民都市ですが、大阪が経済的な理由で移住する人々、つまりブルーカラー層の人が比較的多いのに対して、東京は政治・教育的な目的で移住する人が目立ちます。そういった人々は労働移民とは言い難く、やはりそういった面からも東京よりも大阪のほうが強く惹かれました。

2つ目はトルコですね。海外は最近、韓国、台湾、香港の東アジアが中心ですが、市大の教員に着任する前の大学で、研究調査のためにトルコ等に何度もフィールドワークをした体験がとても強烈でした。トルコのアンカラで接した

トルコ人とドイツで出会ったトルコ移民の人々は考え方が大きく異なっていたことが非常に興味深かったです。トルコ在住のトルコ人は、EU加盟準備国として、徹底した政教分離のもと、先進国的な様相も多くあります。それとは対照的に、ドイツ在住のトルコ人は当然ドイツ国内では少数派です。そのような中で宗教への厚い信仰があり、トルコ人同士のつながりが強い中、比較的保守的なコミュニティを形成しているように見えました。同時に、トルコの都市発展の早さに伴う不法占拠地区、いわゆるスクオッター地区の広がりの大きさは世界でも有数であり、その調査が結構大変だったことも記憶に残っています。

－先生の趣味は何ですか

仕事が趣味みたいなところもあり、その意味では無趣味人間かもしれません。しかしあえて言うなら、せめて移動中は楽しみたいというところで、ちょっとマニアックな鉄道ファンかもしれません。もともと生まれた家の隣に市電の車庫があったので、物心がつくころにはすでに鉄道に愛着があったように思います。特に地元の市電が廃線されたときは、この世の終わりのような落胆感に襲われました。市電がなくなると、バスにも関心を持たざるを得なくなり、トルコでは結構バスオタクになったりしました。鉄道沿線のそれぞれのカラーも含めて、細かいところでは、車内のインテリアや音、快適度、加速、減速などの違いなど、ホームに電車が入ってきてから何秒で止まるかを計測したり、国内外のトラム（路面電車）に徹底的に乗り尽くすなどしています。トラムに乗ると都市構造がよくわかり、これはいい勉強になります。ご多聞に漏れず、小さい頃は電車の運転手になりたい、と書いていました。

積極的に関わろう

－今の学生に求める能力を教えてください

ホームレス支援にしてもそうですが、普段なかなか自分から積極的に関与しづらいところに、自らの身を投じて、そうしたアシストを行うことが教育だと思っています。関わっている専門の授業や、コミュニティ再生副専攻の地域実践演習やアゴラセミナーはそういったことを積極的に行うことができるので、ぜひ受講してください。

文責
後藤遼（Hijicho）

マイナンバーって何やねん？
～「知らない」で済まない新制度を解説～

皆さんはマイナンバー制度をご存じだろうか。今年の10月から住民票を持つ全ての国民にマイナンバー（個人番号）が通知されることになっており、現在テレビCM等で盛んに告知が行われている。しかし、その存在は聞いたことがあっても、中身を完璧に理解しているという人は少ないだろう。実はこの新制度、私たちの生活に密接に関係してくるものであり、いざという時に「知らなかった」では済まされないかもしれないのだ。今回はそんな「マイナンバー制度」について解説する。

・マイナンバー（個人番号）制度とは？

2013年5月に国会で成立した「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」によって導入が決まった新制度である。住民票を持つ全ての国民に1人1つマイナンバーを割り当て、複数の行政機関にある個人情報をそのマイナンバーで結びつけることで、その個人情報が同じ人のものであることを確認するためのものだ。

また来年1月以降には、行政手続き等で利用できる個人番号カードが申請により交付される。今年10月以降に通知カードでマイナンバーが通知された後に市区町村に申請すると、来年1月以降、個人番号カードの交付を受けることができる。この個人番号カードには、表に氏名、住所、生年月日、性別、本人の写真、裏にマイナンバーと氏名が記載される。そのため本人確認のための身分証明書として利用できるほか、カードの電子証明書を用いて、e-Tax（国税電子申告・納税システム）をはじめとした各種電子

申請が行える。また、自分の住んでいる自治体の図書館利用証や印鑑登録証など各自治体が条例で定めるサービスにも使用できる。さらに総務大臣が認めた民間事業者が、電子商取引等を行う際の本人確認にも使用できるよう検討されている。なお個人番号カードには、書かれている情報のほか、電子申請のための電子証明書は記録されるが、所得や病歴などの個人情報は記録されない。そのため、個人番号カード1枚から全ての個人情報が分かってしまうことはない。

マイナンバーは個人のためだけでなく、法人にも通知される。今年10月から、株式会社や有限会社といった設立の登記をした法人などに13桁の法人番号が通知される。法人番号はマイナンバーと違い、誰でも自由に使用することができる。なお、法人番号は1法人につき1つであり、支店や事業所ごとには通知されない。

注意しなければならないのは、各行政機関が持っている個人情報を、特定の機関に集約して一元管理するのではないことだ。これまで通り個人情報は各行政機関が保有し、他の機関の個人情報が必要となった時にはマイナンバーを使って本人確認を行い、提供を受けることができるという、分散管理方式を採用している。

・私たちの生活にはどんな影響が？

来年1月から、社会保障、税、災害対策の行政手続きにマイナンバーが必要になる。マイナンバーは社会保障、税、災害対策の中でも、法律や自治体の条例で定められた行政手続でしか使用することはできない。例えば年金や雇用保険、生活保護の給付手続き、ハローワークの事務手続き、税務署等に提出する書類への記載、災害被災者の生活再建支援金の給付手続き等の時にのみ使用できる。また、税や社会保険の手続きにおいては、事業主や証券会社、保険会社などが個人に代わって手続きを行うことがあるため、勤務先や金融機関にもマイナンバーの提出を求められる場合がある。

さらに、民間企業が従業員の健康保険や厚生年金の加入手続を行ったり、従業員の給料から源泉徴収して税金や保険料等を納めたりする場合や、金融機関が配当金・保険金等の税務処理を行う場合にも、来年1月以降（厚生年金、健康保険は2017年1月以降）は、これらの手続を行うためにマイナンバーが必要となる。そのため、企業や団体で働く人や金融機関と取引がある人は、勤務先や金融機関に本人や家族のマイナンバーを提示する必要がある。

マイナンバーは社会保障、税、災害対策の手続きのために、国や地方公共団体、勤務先、金融機関、年金・医療保険者などに提供するものであり、法律で定められた目的以外にむやみに他人にマイナンバーを提供することはできない。もし他人のマイナンバーを不正に入手したり、他人のマイナンバーを管理する人がマイナンバーや個人情報ファイルを他人に不当に渡したりすると、処罰の対象になるので注意が必要だ。

・マイナンバー制度のメリット

マイナンバー制度導入により期待されるメリットとして、大きく3つが挙げられる。

1:公平・公正な社会の実現

所得や他の行政サービスの受給状況を把握しやすくなるため、税金や社会保険料等の負担を不当に免れることや、年金、生活保護等の給付を不正に受けることを防止するとともに、本当に困っている国民にきめ細かな支援を行えるようになる。

2:国民の利便性の向上

添付書類の削減など、行政手続が簡素化され、国民の負担が軽減される。また、行政機関が持っている自分の情報を確認することもできるようになる。

3:行政の効率化

行政機関や地方公共団体などで、手続きに要している時間や労力が大幅に削減される。また複数の業務の間での連携も進み、作業の重複などの無駄が削減されるようになる。

・マイナンバー制度の問題点

マイナンバー制度にはメリットばかりでなく、問題点ももちろん存在する。

1:個人情報保護の問題

マイナンバー制度導入で最も心配されているのは、マイナンバーの流出により、他の個人情報も漏れてしまうことである。マイナンバーは前述のとおり、様々な個人情報を一つの番号で結びつけることになるので、それを使ってさまざまな個人情報を手に入れることが可能であり、マイナンバーが流出することで、その人の所得や病歴が他人に知られてしまうかもしれない。

2:マイナンバーを悪用した新しい犯罪の問題

マイナンバー制度はこれまでにない新制度であり、まだ国民の間に十分に周知が行き届いているとは言い難い。そこを突いて、マイナンバー制度を十分に理解できていない国民を標的とした犯罪が発生する可能性がある。

3:導入や維持費用の問題

マイナンバー制度導入に備え、各行政機関でシステムの改修などが進められており、それにかかる費用分の効果が実際に出るかどうかは、現段階では未知数である。また今後、従業員のマイナンバーを管理していくことになる各企業や法人も、マイナンバー制度導入の対策に追われており、負担となっている。

・問題点に対する関係機関の対策

制度面での個人情報の保護措置として、法律に規定があるものを除いて、マイナンバーを含む個人情報を収集したり、保管したりすることを禁止する。また、特定個人情報保護委員会という第三者機関を設置し、行政機関のマイナンバーの管理が適切かどうか監視・監督を行う。さらに従来よりも罰則を重くすることで、マイナンバーの不正利用を未然に防ぐ効果も狙う。

2017年1月からは、情報提供等記録開示システム（マイ・ポータル）という、行政機関が持っている個人情報や、マイナンバーを含む自分の個人情報をいつ、誰が、なぜ提供したのか確認できたり、行政機関などから一人一人に合った行政サービス等のお知らせが来たりするシステムが稼働する予定だ。これを国民に活用してもらうことで、いち早く個人情報の漏洩を見つけ対策を講じられるようにする、行政機関がどんな個人情報を持っているのか確認できるようにすることで、行政機関の透明性を高める、等の効果を狙っているようだ。

・私たちは何をすれば良いのか

まずはどこにマイナンバーが通知されてくるのかを知っておくことが大切だ。特に下宿生の場合、住民票は実家のある自治体に置いている人が多いだろうから、夏休み等で帰省した際に確認しておくと良い。そして、これは自宅生にも下宿生にも共通することだが、家族とマイナンバーの扱いについて話しておくとなお良いだろう。例えば、マイナンバーは家族の代表者が管理するか、自分でも持つようにするかを話し合うだけでも良い。マイナンバーを伝える必要のある場合や、使うことで便利となる手続き等について知識を共有しあうことで、家族がトラブルに巻き込まれる可能性を減らすことができるかもしれないので、より効果的だろう。

また、マイナンバーが通知されたら、みだりに他人に教えるようなことはしないようにする。特に不特定多数の目に触れることになるSNS等に書き込むようなことは、絶対にしてはいけない。マイナンバーを提供しなければならない行政機関や手続きは、前述したように法律で決まっているので、それらを知っておき必要な時にだけマイナンバーを提供するようにしたい。

そして、個人番号カードの発行申請を検討してみるのも良いだろう。同カードがあれば、行政手続等が簡略化されるだけでなく、本人確認のための身分証明書としても使用できる他、電子商取引等での本人確認に使用可能になるよう検討されているという。持っておいて損は無いと言えるだろう。

最後に、マイナンバー制度はまだこれから始まる制度であり、今後の制度の運用具合によっては新しい使い方が追加されたり、変更が行われるかもしれない。それらの情報を積極的に取り入れ、変化に対応できるようにしたい。また、情報提供等記録開示システム（マイ・ポータル）が始まったら、それを使って自分の個人情報が適切に管理されているか、ということに注意をはらっておくことが大切である。

マイナンバー制度は、少子高齢化が進む日本において、より効率的に税金を集め、本当に必要な社会福祉を維持していくために必要な社会インフラとなりうる、画期的な新制度である。しかし前述したように、個人情報保護の面などで様々なデメリットを抱えているのも事実だ。今のところマイナンバー制度は予定通り開始されることになっているが、今後の展開次第で変更がなされる可能性もある。いずれにせよ私達がしなければいけないのは、その制度についての理解を深め、正しく利用できるようにしていくことだ。本記事が市大生にとって、上手くマイナンバーを使いこなすための一助となれば幸いである。

参考ページ

「マイナちゃんのマイナンバー解説」
（http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/bangoseido/gaiyou.html）

文責

北村健太（Hijicho）

手持ち花火ができる場所って…？

夏の風物詩である花火。打ち上げ花火を見に行くのも良いが、手持ち花火も楽しいだろう。しかしながら、禁止された場所で行うと法律違反になる恐れがある。とはいっても、手持ち花火のできる場所が一体どこなのかあまり知られていない。そこで、大阪府内で花火を楽しめる公園を紹介する。夏の思い出を花火で彩ってはいかがだろうか。

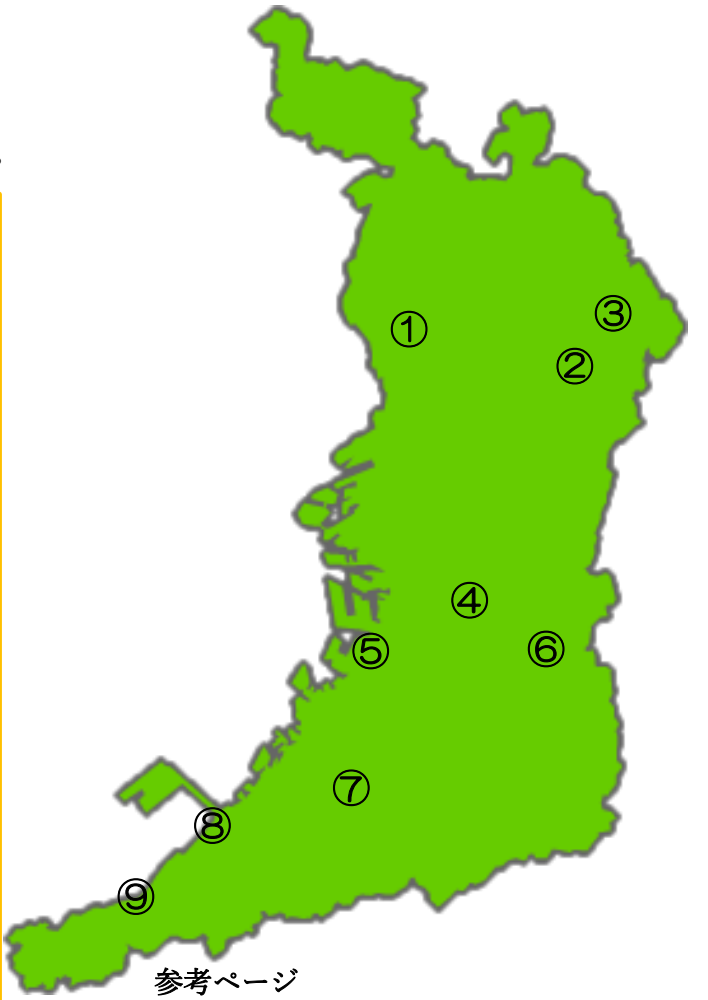
①服部緑地（豊中市　北大阪急行緑地公園駅から徒歩約5分）
②寝屋川公園（寝屋川市　JR学研都市線東寝屋川駅から徒歩すぐ）
③山田池公園（枚方市　京阪バス出屋敷バス停から徒歩約14分）
④大泉緑地（堺市　大阪市営地下鉄御堂筋線新金岡駅から徒歩約12分）
⑤浜寺公園（堺市　JR阪和線東羽駅から徒歩約6分）
⑥石川河川公園（羽曳野市　近鉄南大阪線道明寺駅から徒歩約3分）
⑦蜻蛉池公園（岸和田市　JR阪和線下松駅から南海バス蜻蛉池公園前　徒歩すぐ）
⑧りんくう公園（泉佐野市　南海空港線りんくうタウン駅から徒歩約4分）
⑨せんなん里海公園（泉南郡　南海本線淡輪駅から徒歩約15分）　等

※他の公園については、直接公園管理事務所へ尋ねること

注意事項
・ゴミは持ち帰ること
・水の入ったバケツを用意し、火の後始末は確実にすること
・騒音に気を付け、周辺住民の迷惑になる行為は慎むこと
・大きな音の出ない手持ち花火だけで楽しむこと

文責
中村有里（Hijicho）

手持ち花火を楽しめる公園の一覧地図



参考ページ
大阪府営公園ガイド
http://www.osaka-park.or.jp/index.html

おもろい学生募集中！

Hijicho では連載コーナー『おもろい学生おりまっせ!』にふさわしい、個性あふれる市大生を募集しています。
○応募資格
・大阪市立大学・大学院に在籍中の学生
○応募先
hijicho@gmail.com まで件名に「おもがく推薦」と明記の上、必要事項（推薦者名・連絡先・推薦理由）をメールでお送りください。
※応募者の中から厳選いたします。
個性ある市大生からのご応募をお待ちしております!

○川柳募集中

大阪市立大学新聞 Hijicho では、市大生の声や想いを大学内で共有すべく、市大や市大生の生活に関する**川柳**を募集しています。毎月テーマを設け、それに沿って優秀賞などの選考を行い、**翌月の紙面（Web版なども含む）にて発表**させていただきます。
第7回目となる7月号では、テーマ「**祭**」に合わせ、多くの作品をご応募いただきました。たくさんのご応募ありがとうございました。

市大川柳

金賞

夏祭り　花火と共に　消えた恋

ＰＮ　ミッドナイトいわさき

選考委員のコメント
読んでいてとても切なくなりました・・・。
次の恋は実りますように！

銀賞

学園祭　貢ぐよたくさん　後輩に

ＰＮ　からあげ

選考委員のコメント
貢ぐ先輩のかっこいい後姿、後輩はしっかり見ていますよ！

息抜きま賞

夜店より　課題祭りじゃ　この時期は

ＰＮ　きちらぎ

選考委員のコメント
課題の合間に自分へのご褒美にかき氷やら焼きそばを食べたいものですね！

作品応募はこちらから

10月号のテーマは『**グルメ**』です。ご応募お待ちしております。

<選考基準>　・テーマに沿っていること
・市大、もしくは大学生の生活に関するないようであること
・五七五を目指していること
この3つの基準をもとにHijichoの選考委員が選考いたします。
<募集締め切り> 10月号分（テーマ『グルメ』） 2015年9月20日まで
<募集要項>右上のQRコードより専用応募フォームにアクセスの上、ご応募いただくか、hijicho@gmail.com まで件名に市大川柳、本文に所属、氏名(ペンネーム可)を明記して送付ください。
※作品は紙面やWebに掲載されることがあります。テーマ以外の作品でも構いません。

Hijicho Recruiting

Hijichoは共に活動し、市大を熱くする仲間を募集しています。
毎週火曜日17時より編集会議を学情にて実施しています。
見学希望の方は hijicho@gmail.com までお問い合わせください。